

農業と日本国憲法



岡山大学名誉教授、博士(農学)

小松泰信

「団体自治」と「住民自治」

憲法第92条【地方自治の基本原則】地方公共団体の組織及び運営に関する事項は、地方自治の本旨に基いて、法律でこれを定める。

私は、この条文を「地方自治体は、『団体自治(※1)』と『住民自治(※2)』を基本とし、その組織及び運営に関する具体的事項は法律に定めると解釈しました。

※1 地方自治体は国から独立した地位をもち自主的に運営される。

※2 地方自治体の運営はその住民の意思に従ってなされる。

「団体自治」が制度的・法的な枠組み、その枠組の中で住民の主體的な

〈5〉農家による住民自治を考える

参加で実現される民主的取り組みが「住民自治」。両者は地方自治の両輪で、補完関係にあります。

適地適作として適策

農業は、その地域の自然社会・経済的立地条件に多大な影響を受けま

す。ゆえに、それぞれの地域の立地条件に適合した適地適作を制度的に保障する適策が望まれます。

その適策は市町村が立案、遂行主体となる独自の農業政策で「自治体農政」と呼ばれています。

自治体農政の要点

宮崎県日之影町の佐藤



「奈義町の農業振興策を展望する」と題して講演する筆者(6月、同町内で)

強く意識している人は多くありません。

しかし、「令和の米騒動」で明らかになった、この国の農業の危機的な状況を克服するためには、自治体農政の構築が不可欠です。

そのために求められるのが、住民自治です。

岡山県奈義町の住民自治

藤岡町長は、「自治体農政がこの国の農政の基本。現場のことを『末端』という人もいるが、国はその『末端』に軸足を置

6月28日、岡山県北東部に位置し、鳥取県との

いておかないとかし取りをたがえる。上つ面な聞こえの良い今だけ、所得だけの視点ではなく、しっかりと政策のかじ取りをしてほしい」(『日本農業新聞』4月23日付)とズバリの指摘。さらに「農政の大ヒットが、農水省の中山間地域等直接支払制度とされている。(中略)この制度のおかげで集落の話し合いが進んだ。話し合いは、住民自治の基盤だ」(同紙4月29日付)と住民自治についても言及しています。

残念ながら、団体自治のリーダーで自治体農政を

県境にある奈義町で「農業の希望を語る集い」(以下、「集い」)が行われました。同町は、2019年の合計特殊出生率が2・95であったことで有名ですが、主要産業である農林業は衰退傾向にあります。

「集い」はこの状況に危機感を覚えた、町会議員、JA関係者、区長、会長、老人会会長、大規模農家や畜産農家など、幅広い階層、年代から構成された実行委員会によって開催されました。そして、町の内外から100人の参加者を得まし

仏に魂を込める

「仏作って魂入れず」という諺になぞらえれば、団体自治は仏で、住民自治は魂です。団体自治は制度的に保障されていますから、問われるのは、どれほど住民自治という魂が込められているかです。

この国の農業及び食料問題を克服して次代に渡すための原動力は、農業者のもとより、地域住民が自分事として自治体農政の構築を「団体自治」に向かって訴え続けていく、魂としての「住民自治」の高まりです。

こまつやすのぶ「一般社団法人長野県農協地域開発機構研究所長。著書に『新訂版 非敗の思想と農ある世界』(大学教育出版)『農ある世界と地方の眼力177』(大学教育出版)『隠れ共産党宣言』(新日本出版社)など。

ホットラインの投稿は編集部メールアドレス s-press@shinfujin.gr.jp へ

ホットライン

兵庫

ミサイルより
米よこせパレード

【須磨支部 曾我節代】7月4日、新婦人主催、須磨区共同センター共催で「ミサイルよりも米よこせ」パレードをしました。きっかけは、農民連の方を講師に、お米の学習会をしたときに、講師が「農民側だけでなく、



70人でパレード▲兵庫

消費者も何かしてほしい」と言われたのを聞いた参加者からの提案でした。

70人の参加者で、シュプレヒコールをしました。メインの板宿商店街では、商店の人たちをはじめ、買い物客、高校生たちも腕を上げたり、手を振ったりと楽しい、タイムリーなパレードになりました。

岩手

日帰り温泉
旅行へ



10時出発、14時半解散!▲岩手

【大船渡支部 千葉真美】

6月19日、岩手県最南端の岬にある黒崎仙峡温泉へ日帰り旅行をしました。高齢化により、多くの会員が運転できなくなっているため、送迎バスを利用して、会員17人、読者2人の計19人が参加。

2〜3月の大規模林野火災では被災者はもちろん、市民全員が山から立ちのぼる炎や煙におびえ、風を恨み、雨を待ち

望みました。県内外からの消火活動をするヘリコプターや消防士の方々は感謝の気持ちでいっぱいでした。気持ちをリフレッシュし、元気を取り戻そうと企画しました。

海の幸、山の幸いっぱいの弁当、太平洋を望む温泉に浸かり、初夏の草木を楽しみながら遊歩道を歩き、おしゃべりし、歌を歌い楽しい1日を過ごしました。

茨城

3月に班を再建
毎月班会



やりたいこと出し合って▲茨城

【真直属のぞみ班】3月に班を再建したばかりです。「子どものころに体験した新婦人のとりくみをつないでいきたい」「子育ての悩みを出し合っ

やりたいこと出し合っ、すすめています。

6月の班会はしんぶん6月28日号1・2面を読み、「子どもがアレルギー薬を飲んでいいるから、OTC類似薬の保険外しは困る」との声が。2面の参政党については、「私たちの地域は外国人の雇用が多い。参政党の訴えが無意識に差別や偏見につながらないか心配」など出し合いました。